



心と声 響き合う 朗読の世界を!



▲ホールに入場されるお客様



第21回「朗読の日」を振り返って思うこと

◆演出：永井寛孝

参加される方々との演出的関わりは2～3回。中でもグループ朗読参加者とは更に数回プラスの関りで、当然より深くお互いを知ることになる。作品の理解や方向性と表現についてのやりとりも増える。これが負担ではなく喜びと発展につながれば言うことなし！と思う私です。



Aステージ フィナーレ 司会・木村さおり



Bステージ フィナーレ 司会・加藤明美



Cステージ フィナーレ 司会・見澤淑恵



Dステージ フィナーレ 司会・斉藤ゆき子



▲本読み風景



▲前日にパンフレット準備

◆個人朗読

古今東西の様々な作品の心と世界を、それぞれの感性を通して伝えました。



◆澤則子
故郷の南部弁の優しい響きを皆様に感じてもらえるよう努めました。



◆稲葉慶子
外郎売は台本なしで全部暗記し、衣装にも工夫を凝らしてお陰様で好評でした。

◆グループ朗読 チームで繋げる話の輪

それぞれのチャレンジが、グループの修練で花開き感動を生みます。



▲Bステージ グループ朗読



▲Cステージ グループ朗読



◆金子裕子
極限状態でよく声が出たな、完遂できたなあ、生きてる実感！これぞ舞台ならでは！



▲Dステージ グループ朗読



◆満月ゆり
ずっと憧れだった「朗読の日」の舞台。4人で朗読、幸せな時間でした。



◆伊吹よし子
今まで主に個人参加だったので、今回複数人で響きが重奏的で新鮮でした。

色々な表現方法が未来へ繋がる道を切り拓く、人それぞれの道に出会う第21回「朗読の日」。これからを見据えています。



脱皮からはじまる一歩

◆演出：倉田ひさし

脱皮できない蛇は死ぬ…といわれます。2025年の干支は「巳」。果たしてうまく脱皮できたかどうか不安はありますが、皆さまのおかげで無事に第21回「朗読の日」を終えることができました。今後はさらなる飛躍をめざし新たな年を駆け抜けたいと思っています。



▲受付準備



▲登壇前の衣装替え

◆加賀美講座 「更級日記」菅原孝標女

千年の時を超えて伝える、菅原孝標女が描く平安の世界。



◆越光貴子
加賀美先生の解説で古典を朗読でき感激でした。グループの皆様にも感謝で一杯です。



▲Aステージ 加賀美講座



▲Bステージ 加賀美講座



▲Cステージ 加賀美講座



▲Dステージ 加賀美講座

◆スタッフは舞台を支える力。



◆鶴月光子
着付のお手伝いでしたが、着付後の朗読者の方のキリッとした表情が印象的でした。



◆中谷良史
路上整理では、スタッフもお客様のご協力に支えられていると思いました。



◆遠藤真理子
短い打ち合わせの中での意見交換が素晴らしく、感激。そして感謝でした。



第21回「朗読の日」を終えて

◆実行委員長：前尾津也子

第21回「朗読の日」は2025年6月21日(土)、22日(日)の2日間、銀座博品館劇場にて開催しました。延べ出演者数88名、入場者数は1248名と過去最多。新旧力を合わせて取り組み、今までの歴史の上に新しい一歩を踏み出すことができました。

◆アンケートより(抜粋)

出演者とスタッフのそれぞれの創意工夫とチャレンジが進化を支えます。

◆出演者の想い

・周囲(演出家、チーム)の人との交流から学び、特別な舞台で表現への挑戦を通して進化と多様性の広がりを実感しました。

◆スタッフの想い

・スタッフ同士のチームワーク、学び、達成感を体験、お客様の喜びが遣り甲斐に繋がりました。
・運営の記録の蓄積と活用が成長の鍵になります。

◆「朗読の日」事業についての想い

・「朗読の日」には、朗読文化を普及する役割と「言葉の力を伝える」社会的意義があります。
・変化の継続が成長し続けることになると思います。

◆総力はお客様のために

準備から本番、そして総括まで、それぞれの力を結集して総力でつくり上げています。



第21回「朗読の日」実行委員

前尾津也子(実行委員長)、中村悦子(実行副委員長)、松坂貴久子(実行副委員長)、朝比奈恵美、阿部公子、稲本由美子、岩崎三恵子、岩田理加子、鶴月光子、大沼雪乃、川口和代、木村さおり、斉藤ゆき子、田中邦子、中谷良史、本間尚子、武笠守博、山田和雄、渡部玲子